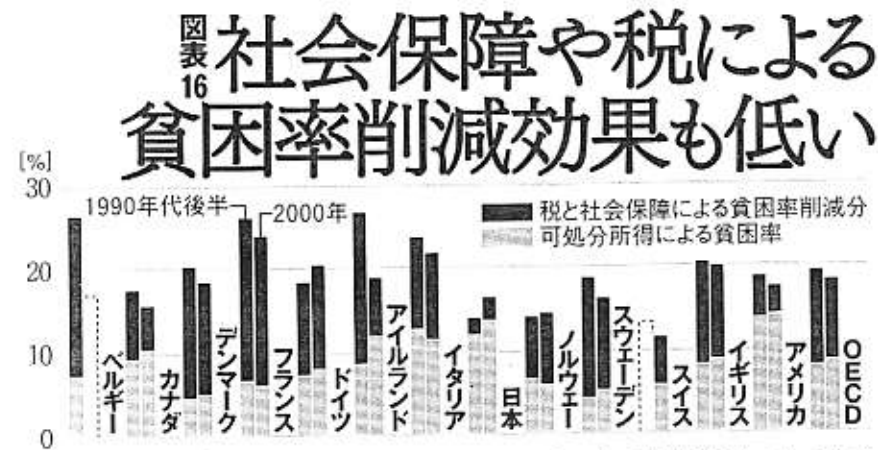
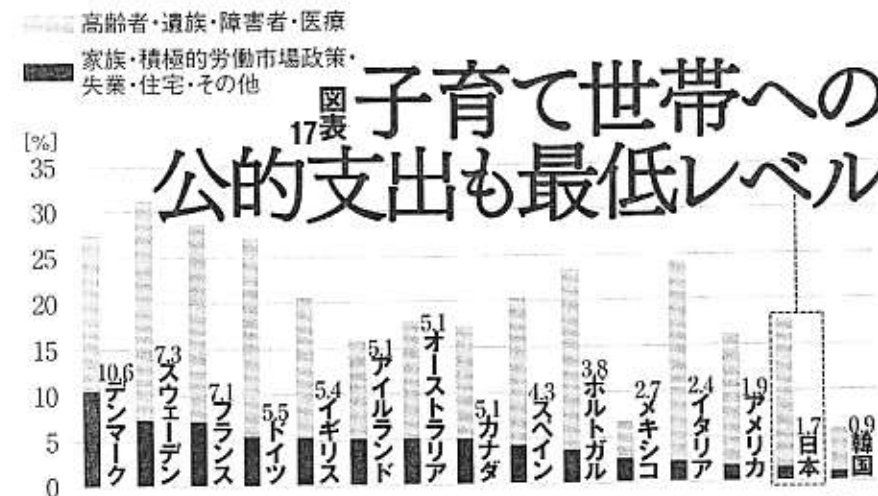


図表15・16 OECD "Income Distribution and Poverty in OECD Countries in the Second Half of the 1990s" OECD「1990年代後半のOECD諸国における収入分布と貧困」縦軸は相対貧困率の割合 (OECDの測定方法は図表3とは異なる)、横軸は働いている人に対する社会支出の対GDP比。国々は左上から右下にならんでいる。日本、アメリカ、トルコ、メキシコは社会支出が少なく、貧困率が高い。



棒の黒い部分の大きさは、税と社会保障で貧困率をどの程度削減しているかを示す。日本の税制は、特に、再配分効果が小さい。



OECD Social Expenditure database 2007 OECD「社会支出データベース2007」日本は、高齢者や医療などに対する公的社會支出も先進国中では低い方だが、勤労世帯、子育て世帯に関連が高いと思われる「家族」・「失業」・「住宅」・その他(生活保護をふくむ)などに関しては、きわだって低い。